研究課題名

「多目的コホート研究における病理組織の収集と腫瘍の分子情報を用いたがんの原因究明に関する研究」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　H28中倫小第5号）

疫学研究実施についてのお知らせ

病理診断科では、前向きコホート研究で発生した腫瘍の分子情報を用いたがんの原因究明に関する疫学研究を実施しております。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成28年5月27日

【研究課題名】

多目的コホート研究における病理組織の収集と腫瘍の分子情報を用いたがんの原因究明に関する研究

【研究期間】

2016年5月27日から2025年1月14日まで

【調査対象】

多目的コホート研究\*は、国立がん研究センターが中心となって全国11か所で実施している生活習慣とがんなどとの関連を明らかにするための大規模研究です。アンケートによる生活習慣の把握の後、がんの発生について、20年以上の追跡調査を行っています。

当院での対象は、1990年の研究開始時点に沖縄県中部保健所管内（旧具志川市、恩納村）に、居住していた当時40から59歳の方約1万4,000人のうち、生活習慣に関するアンケート調査票にご回答いただいた約1万人の方です。ただし、本研究の追跡開始後に本研究での資料の利用を拒否した方は対象から除外されます。

\*コホート研究：集団を追跡する研究のことを指します。

【研究目的・意義】

がんをサブタイプに分類することにより、サブタイプごとのリスク要因を検討できます。たとえば、喫煙者で特定の遺伝子突然変異・エピジェネティック以上のある胃がんサブタイプが多ければ、喫煙から胃発がんにいたるメカニズムについて考察できます。

大規模なコホート研究で、がんを分子生物学的な解析によりサブタイプに分けてリスク要因との関連を検討するのは、日本において初めての試みであり、がん発生のメカニズムを明らかにし、日本人のがん予防につながるエビデンスを提示できる可能性があります。

【研究の方法】

多目的コホート研究対象者のがん罹患情報にもとづき、当院から国立がん研究センターに、がんの病理標本を提供します。国立がん研究センターでは、がんの遺伝子変異、DNAのメチル化、遺伝子増幅・遺伝子発現解析によりがんを分類します。対象とするがんの部位は、胃がん、大腸がん（結腸、直腸がん）、肺がん、前立腺がん、乳がんとします。

分類した結果を用い、1）生活習慣などのリスク・予防要因とがんとの関連、ならびに、2）リスク・予防要因とがんの予後との関連が、がんのサブタイプで異なるかを検討します。

【個人情報の取扱い】

病理標本は匿名化した番号のみを付けて、国立がん研究センターに提供されます。

【研究機関】

沖縄県立中部病院、国立がん研究センター

【研究に参加したくない場合】

上記の研究対象に該当する方で、ご自身の病理標本を研究に利用しないで欲しい方は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

【本研究に関する問い合わせ先】

沖縄県立中部病院　病理診断科　国島文史

沖縄県うるま市宮里281番地

電話番号098-973-4111(内線 2143)